



VOL.44

スタッドレスタイヤの選び方について

このコーナーではクルマに関する
知になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

スタッドレスタイヤ選びは、冬の安全運転のためにとても大切です。
今回は自分の車にピッタリなタイヤを見つけるためのポイントをいくつかご紹介したいと思います。
現在は、国内から海外まで様々なメーカーから販売されていて、初めてスタッドレスタイヤを購入される方は、ショッブに行っても迷ってしまうのではないのでしょうか？
スタッドレスタイヤ選びは住んでいる地域や車の使用頻度や使用目的によっても異なりますので自分に合った選び方をしましょう！

1 スタッドレスタイヤってどんなもの？

スタッドレスタイヤは、雪道や凍結路面で車が滑らないように、走る・曲がる・止まるという基本的な性能を発揮できるよう設計されています。ノーマルタイヤは気温が7℃以下になるとゴムが硬くなり、グリップ力が低下しますが、スタッドレスタイヤは低温でも柔軟性を保てる特殊な素材を使用しています。トレッド面（路面に接する部分）には深い溝や「サイプ」と呼ばれる細かな切り込みがあり、これが雪を効率的に掻いたり、氷上の水膜を取り除いて路面に密着させたりする役割を果たします。



2 スタッドレスタイヤの選び方

スタッドレスタイヤを選ぶ際には、下記3つの観点から検討すると良いでしょう。

1. サイズ合わせ

新車に装着されているノーマルタイヤと同じサイズを選ぶのが基本です。
タイヤのサイズは「215/45R18 93W」のように表記され、「215」がタイヤ幅、「45」が扁平率、「18」がリム径（ホイールの直径であるインチ）を示します。購入前に車のタイヤ情報を必ず確認しましょう！



〔タイヤ幅〕〔扁平率〕〔リム径(インチ)〕

2. 使用環境と性能

走行する場所によって、重視すべき性能が変わってきます。近年では、特定の車種に合わせた専用設計のスタッドレスタイヤも登場しています。例えば、SUV専用は氷上性能やウェット性能を強化し、安定性を高めたものが多くあったり、ミニバン専用は多くの人数を乗せて走行することを想定し、タイヤの片べりがしにくく長持ちするよう設計されています。

積雪が多い地域を走行する場合

雪上性能を重視しましょう。深いトレッドパターンを持ち、雪をしっかり掘るタイヤが理想です。タイヤのサイドウォールが強化されているものと、雪道での安定性がさらに向上します。

凍結路面が多い地域を走行する場合

氷上性能が特に重要です。氷とタイヤの間のできる水膜を効率的に取り除く「排水機能」が高いタイヤを選びましょう。ゴムが柔らかいほど路面との密着度が高まり、滑りにくくなります。

3. 経済性と寿命

スタッドレスタイヤは決して安い買い物ではないので、経済性も考慮しましょう。

コスパ

型落ちモデルでも性能が十分に高い場合があり、価格を抑えたい方には良い選択肢となります。また、あまり雪が降らないような地域で「降った時に困るから」といった理由であれば、コスパの高い海外メーカー品を選んでも良いかと思えます。基本的には国内メーカー品は、日本の積雪に合わせて設計されているため、性能自体は国内メーカー品がオススメ。しかし海外メーカー品が悪いというわけではありません。ゴムが硬めだったり、ロードノイズが大きめだったりするかもしれませんが、通勤距離も短く、スキー場にも行かない、雪が積もるのも年に数回といった方には適しているかもしれません。

ロングライフ性能

スタッドレスタイヤのゴムは路面へのグリップ力を高めるために柔らかく作られているため、使用状況にもよりますが寿命は3～4年が目安とされています。しかし、最近ではゴムの配合や新素材の採用により、寿命が長い製品も増えています。